

■近松門左衛門 浄瑠璃・歌舞伎作者。現代でも演じられる傑作を次々と生み出し、わが国最大の劇詩人といわれる。
ちかまつもんざえもん
野郎歌舞伎始1653＝ 父の杉森信義が越前吉江藩の幼主に仕えて福井に在住していたとき次男として生まれたらしい。

明暦の大火・1657＝ 4歳：

松平信綱没・1662＝ 9歳：

酒井忠清大老1666＝13歳：
入鉄砲出女令1667＝14歳：この頃_父が浪人し、一家とともに京都に移住し、やがて後水尾帝の弟一条恵親に仕えた。

・・・・・・1671＝18歳：「俳書」に一句入集。
東西海運確立1672＝19歳：また_正親町公通らの公家に仕えたともいう。

この間、_和漢の古典的教養を身に付けたらしく、人形浄瑠璃の世界に接近したのもこの時期であった。

_浄瑠璃作者としての活動は加賀掾のもとで始まり、

越後騒動・・1679＝27歳：この頃から、_近松によると思われる作品が登場する。
徳川綱吉將軍1680＝28歳：

八百屋お七・1683＝30歳：_加賀掾のために書いた「世継曾我」が、
堀田正俊暗殺1684＝31歳：*大坂道頓堀で旗揚げした竹本義太夫によっても語られて評判になり、作者としての地位を確保。竹本義太夫との出会いは、その後の近松にとって決定的な意味をもつことになる。
出世景清初演1685＝32歳：*竹本義太夫のために書いた「出世景清」は、古浄瑠璃と当流浄瑠璃とを画す浄瑠璃として評価されている。
・・・・・・1686＝33歳：_竹本座の「佐々木先陣」で初めて近松門左衛門と署名。
生類憐令始・1687＝34歳：父が死去。
・・・・・・1689＝36歳：

奥の細道・・1693＝40歳：近松はすでに歌舞伎作者でもあったが、

生類憐令頂点1695＝42歳：_坂田藤十郎が京都の都万太夫座の座本になり、その座付作者に迎えられた年から、歌舞伎作者としても精力的に活躍しだし、
次々と作品を生み出し、

吉保大老格・1698＝45歳：
・・・・・・1699＝46歳：「傾城仏の原」._役者評判記「鋸末」に狂言作者として記載される。

松の廊下事件1701＝48歳：_藤十郎が座本を退き、病気がちになって芸も衰えはじめ、よき理解者、協力者を失うことになり、
赤徳浪士討入1702＝49歳：_「傾城壬生大念仏」を書き、それを演じた藤十郎は“古今濡事の開山、けいせい買の元祖”と評された後、_再び浄瑠璃作者へと移行していく。
赤徳浪士切腹1703＝50歳：_竹本義太夫のために書いた「曾根崎心中」が大当りを取る。それまでの負債を一挙に返すことのできた義太夫は、それを機会に座本の位置を退き、替わって竹田出雲が竹本座の経営に当たることになるが、近松はその座付作者となり、
御蔭参流行・1705＝52歳：*竹本座再発足の旗揚げとして上演された「用明天王職人鑑」を書く。京から大坂に移住、座付作者として執筆に専念できるようになり、義太夫、出雲と協力して、本格的な作者活動をはじめ、多くの傑作を書く。
富士宝永噴火1707＝54歳：
徳川綱吉没・1709＝56歳：
冥途の飛脚・1711＝58歳：_「冥土の飛脚」。

絵島事件・・1714＝61歳：_義太夫死去後も、後継者政太夫(2世竹本義太夫)のために多くの世話者、時代物を書き、
国姓爺合戦・1715＝62歳：_「国姓爺合戦」が三年越しの大当たり。
徳川吉宗將軍1716＝63歳：

洋書輸入解禁1720＝67歳：_晩年に至っても「心中天網島」や、
小石川葉園・1721＝68歳：_「女殺油地獄」などの傑作を生み出して、

近松没・・・1724＝71歳：_没した。